



持続可能な自治会活動に向けて、課題解決のヒント

誰もが主体的に参画したいと思える自治会を目指して、毎年このコラムで「女性のみなさんも自治会長を」と呼びかけてきました。その結果、下のグラフでわかるとおり、令和5年4月1日現在で、女性自治会長は35人、女性比率は18.5%となりました。この10年間で、一度も抜け出すことができなかった10%台前半から一歩前進。みなさんのご尽力に、深く感謝申し上げます。

我孫子市に限らず全国の自治会で、加入率低下や担い手不足が課題となっています。地域に住む人々の生き方や暮らし方が多様化し、自治会活動もまた、それに合わせて変化していかなくてはなりません。共働き世帯や単身世帯、子育て世帯など、多様なニーズに応える活動や、多忙な人々、学生など若い世代を含めて様々な方が担い手となれる運営が今こそ大切です。そのためにもまず、女性が自治会長を担い、総人口同様に「自治会長も男女半々が当たり前」となることが期待されます。

「役職には世帯主が就くもの」「会長は年長の男性のもの」「女性はトップに就いたり、仕切り役をするのは苦手」という思い込みはないでしょうか。「大変な仕事なので働いている人には無理」「伝統的なことはわかっていないと務まらない」という自治会なら、加入したいと思う人はどんどん減ってしまいます。魅力的な自治会となるため、回ってきたら誰でも会長を引き受けられる、そんな体制を共に作っていきませんか。

《 担当:男女共同参画室 》

我孫子市内の自治会長女性比率率と
女性自治会長数の推移
(各年4月1日現在)

